

保育者養成のための科目「乳児保育」の指導法 (2)

－保育所と乳児院の理解をめぐって－

安田 華子*

Teaching Subject for Training of Nursery Caregivers “Infant Care” (2) － On Understanding of the Infant Home and Nursery －

Hanako YASUDA

1. はじめに

現在は、待機児童解消のため認定こども園の設置を行なっている。文部科学省・厚生労働省要保連携推進室の発表によると平成25年4月1日と平成26年4月1日を比較すると、1099件から1359件に増えており、急速に進められていることがわかる。待機児童の中で、もっとも多く割合を占めているのが乳児である(表1)。そのため、乳児の受け入れ人数を増やしている保育所もある。それに合わせ、乳児保育に寄せられる保護者の要求や願いも多くなっているのが現状である。しかし、乳児を受け入れるためには、児童福祉施設最低基準で決められている、乳児の保育室や保育士の配置人数が必要になる。保育所では、0歳児3人に保育士が1人、1、2歳児6人に保育士が1人いるため、入所人数を増やすことにより、保育士の人数増加が必要になるなどの問題も発生している。

表1. 年齢区分別の利用児童数・待機児童数¹⁾
(出典：厚生労働省 保育所関連状況取りまとめ 2013一部修正)

	25年利用児童	25年待機児童
定年齢児 (0～2歳)	827,773人 (37.3%)	18,656人 (82.0%)
うち0歳児	112,373人 (5.1%)	3,035人 (13.3%)
うち1・2歳児	715,400人 (32.2%)	15,621人 (68.7%)
3歳以上児	1,391,808人 (62.7%)	4,085人 (18.0%)
全年齢児計	2,219,581人 (100.0%)	22,741人 (100.0%)

また、2014年度に児童相談所に寄せられた児童虐待通報件数は、過去最高件数(表2)を上回り市民の虐待への関心や虐待被害の多さを窺わせる結果となった。虐待事件の中では、身体が弱く、抵抗ができない乳児の死亡率が多くなっていることがわかる。このような、虐待を受け生命の危機にさらされている乳児を保護するために入院させ養育する場所が乳児院である。平成26年10月全国家庭福祉課の調べによると、乳児院は全国で131か所あり、定員が3,857人、現員は3,069人となっている(表3)。約3,000人以上の乳児が虐待など何らかの事情があり、家庭では過ごせないという現状がある。乳児院でも保育士が看護師と力を合わせて乳児の養育を

* 非常勤講師

表2. 児童虐待相談対応件数の推移²⁾ (出典：厚生労働省 2014一部修正)

年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度 (速報値)
件数	33,408	34,472	37,323	40,639	42,664	44,211	¹⁾ 56,384	59,919	66,701	73,765
対前年度比	125.7%	103.2%	108.3%	108.9%	105.0%	103.6%	²⁾ —	²⁾ —	111.3%	110.6%

注：1) 平成22年度の件数は、東日本大震災の影響により、福島県を除いて集計した数値である。

表3. 社会的養護の現状³⁾ (全国家庭福祉課調べ 2014一部修正)

施設	乳児院	児童養護施設	情緒障害児 短期治療施設	児童自立支援 施設	母子生活支援 施設	自立援助ホーム
対象児童	乳児（特に必要な場合は、幼児を含む）	保護者のない児童、虐待されている児童その他環境上養護を要する児童（特に必要な場合は、乳児を含む）	軽度の情緒障害を有する児童	不良行為をなし、又はなすおそれのある児童及び家庭環境その他の環境上の理由により生活指導等を要する児童	配偶者のない女子又はこれに準ずる事情にある女子及びその者の監護すべき児童	義務教育を終了した児童であって、児童養護施設等を対所した児童等
施設数	131か所	595か所	38か所	58か所	258か所	113か所
定員	3,857人	34,044人	1,779人	3,815人	5,121世帯	749人
現員	3,069人	28,831人	1,310人	1,544人	3,654世帯 児童5,877人	430人
職員総数	4,088人	15,575人	948人	1,801人	1,972人	372人

行なうなど、乳児の成長にかかわっている。

保育所や乳児院では、乳児保育の知識や技術を併せ持つ保育士が職員として働いているが、そのニーズは常に変化し続けているのである。

こうした現状の中で保育者養成のための科目「乳児保育」では、乳児が養育される場である保育所や乳児院についても、今まで以上に乳児の生活や発達など乳児を取り巻く環境も含め理解をし、乳児保育の充実を図り発展させていかなければいけない。そのために、より良い保育者を育てるにはどのような授業展開を行い、講義・演習を組み立てていけばよいかを考える必要がある。「乳児保育」は、現在求められている乳児を預かり「保育」「養育」を行うために、0～2歳の心身の発達に関する理解、保育士の業務・役割を学ぶための必須科目として位置づけられている。演習科目のため、実際に乳児に必要な環境設定を見出し、乳児の心身の発達を手助けするような製作などを試案しながら乳児への理解を深めていく科目である。

今回は、「乳児保育」に代表される「保育所」と「乳児院」の特性の違いや、保育士の業務、保育の違いに焦点を当てた授業を展開した。授業終了後に、N大学2年生対象に「保育所」と「乳児院」の保育士の役割や業務の違いに関する質問調査を行なった。

授業計画は、以下の通りである。

表4. 2014年度「乳児保育」のシラバスの一部

授業の目標と概要	乳児保育の理念と歴史の変遷、および保育所・乳児院・家庭の現状を理解し、その果たす役割を考える。乳児の心身の発達の理解を深め、興味・関心を考慮した遊びについて考え演習を行い、手作り玩具を作製する。その中で、保育計画を作成し、乳児保育を行なう上で、必要な知識と技能を習得する。さらに、乳児保育における、保護者や関係機関について学ぶ。
授業の到達目的	乳児の発達の特徴と、保育について理解する。乳児保育の保育計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成、記録等について理解し習得する。乳児保育の意義を理解し、乳児保育に必要な知識と技能を学ぶ。発達に応じた手作り玩具や遊びなどを考え、実際に製作し発表することで、学生相互の知識を深め、学びあう。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義 2. 保育ニーズと乳児保育の考え方の基本 3. 乳児保育の歴史の変遷 4. 保育所における乳児保育①保育所における乳児保育の意義 5. 保育所における乳児保育②保育所における乳児の生活 6. 保育所における乳児保育③保育所の現状と課題 7. 乳児院における乳児保育①乳児院における乳児保育の意義 8. 乳児院における乳児保育②乳児員における乳児の日常生活 9. 乳児院における乳児保育③乳児院の現状と課題 10. 保育所と乳児院の業務・役割の比較 11. 家庭的養護－里親 12～30 乳児の発達・日常生活等

2014年度は、30回授業のうち保育所における乳児保育（第4、5、6回）、乳児院における乳児保育（第7、8、9回）、保育所と乳児院の業務・役割の比較（第10回）と、保育士の業務・役割がわかりやすいように、保育園では登園から降園までの保育の流れ、乳児院では起床から就寝・夜勤業務までの保育の流れを時系列にそって授業を進めた。その中で、乳児院のイメージを膨らますために、大阪乳児院・親と子のふれあい（児童虐待予防プログラムとして愛知県が制作）のDVDを視聴覚教材として使用した。また、学生自身が気づき問題意識を持てるよう、保育所・乳児院の共通課題となる人員配置の問題、安全に過ごせる環境設定、障がい児を含めた保育、食物アレルギー児への対応という項目、保育所の課題では、待機児童解消、保育の質の向上、保護者との関係についての項目、乳児院の課題では、愛着形成、家庭的な雰囲気作り、日常生活習慣の確立について等、課題を取り上げ進めていった。

2. 調査方法

「乳児保育」第11回受講後、11回を振り返った授業内容確認質問調査として授業内に実施。学生の率直な意見を聞くために、実施日程・内容は学生に伝えず行った。

質問調査には選択肢を準備し、その中から選び答えるものと、理由など学生の考え方や意見を知るための自由記述を取り入れた。

3. 調査対象

N大学2年生133名(質問調査回収人数)。本年度20歳になる学生。実習として幼稚園実習の2週間を終えている(一部4週間終了)。しかし、保育所実習など児童福祉施設では実習を行っていない。

4. 調査内容

(1) 保育所保育士・乳児院で働く保育士の業務理解

①保育士、乳児院で働く保育士の業務について授業よりわかったことを選択肢より3つずつ選ぶ。選択肢は、堀越(2013)⁵⁾、柴田(2013)⁹⁾、菊池(2014)¹²⁾より業務内容にあがった項目をそれぞれ抽出し、その他授業で取り上げた業務内容の項目を加えた。

②3つ選んだものから最も大切な業務と思うものを選び、理由を記入する。

(2) 保育所・乳児院に預けられている乳児のイメージ

①保育所・乳児院に預けられている乳児のイメージを選択肢より3つずつ選ぶ。選択肢は碓氷ら(2004)⁴⁾より、キーワードとしてあがった赤ちゃんのイメージの項目を無作為に抽出し、その選択肢の対義語を加えた。

②3つのうち一番に思いついたものをあげ、その理由を記入する。

(3) 保育所・乳児院の課題

①保育所・乳児院の課題と思うものを選択肢より3つずつ選ぶ。選択肢には、(1)(2)で使用した語句と、名倉ら(2014)⁷⁾、吉兼ら(2010)¹⁰⁾、齋藤(2011)¹¹⁾が、今後の課題に挙げた項目と、近年テレビなどで取り上げられている乳幼児に関する問題を加えた。

②3つの中で一番早期解決をしなければいけないものを上げ、その理由を記入する。

(4) 保育所で乳児保育をする際に必要となる保育士の心構え(自由記述)

(5) 保育所の乳児保育がより良いものになるような具体策(自由記述)

5. 結果

N大学2年生に行なった「乳児保育」の授業内容確認質問調査をまとめる。

(1) 保育所保育士・乳児院で働く保育士の業務理解

①保育士、乳児院で働く保育士の業務について授業よりわかったことを選択肢より3つずつ選ぶ。

保育所保育士の大切な業務の第1位は「安全な環境」19%、第2位は3項目あり「保育内容をお便り帳に記入」「保護者との連携」「発達の援助」11%(図1)となっている。N大学2年

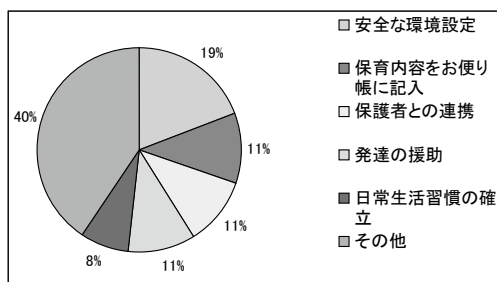


図1. 保育所保育士の大切な業務

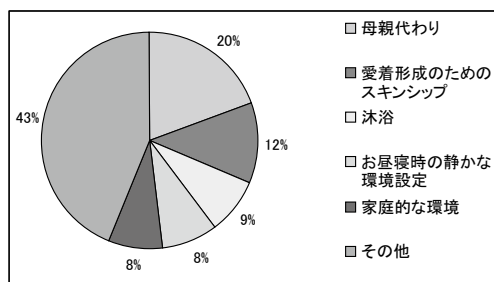


図2. 乳児院で働く保育士の大切な業務

生は、保育所保育士の乳児担当は乳児が安心して過ごせる環境を整え、保護者にきちんと保育の内容や子どもの状態を伝えていく役割が大切であると理解していることが読み取れる。

乳児院で働く保育士の大切な業務の第1位は「母親代わり」20%、第2位が「愛着形成のためのスキンシップ」12%、第3位が「沐浴」9%（図2）となっている。N大学2年生は、乳児院で働く保育士を、実親と暮らすことのできない乳児にとっての母親的存在であり、人間関係の基となる愛着形成が構築できるよう愛情をかけていく必要があることを理解したことがわかる。沐浴も限られた時間ではあるが、1対1のかかわりが持てる場所である。

②3つ選んだものから最も大切な業務と思うものを選び、理由を記入する。

保育所保育士の最も大切な業務を「保護者との連携」と答えた学生が24%、「安全な環境設定」が23%、「発達の援助」が15%（図3）となっている。全体の人数（%）を見ていくと、①の保育所保育士の大切な業務に上がった項目の順番が逆転していることがわかる。「保護者との連携」を答えた理由としては、「体調やその日の出来事を保護者と情報共有をすることは、子どもの発達・成長をよりサポートできる」「保護者と連携することで、よりその子に適切な援助ができ、良い環境づくりになる」「家庭との連携をしっかりとることで、子どもの様子を把握し、子どもへの援助がしやすい」とった内容が多く見られる。「安全な環境設定」では、「安全な場所でなければ、子どもたちがすくすく元気に育つことができない」「事故や怪我をしてからでは遅い」という内容が多く見られる。「発達の援助」では、「子どもが発達する時期で一番大切であるから、適切な援助をすることが大切」「発達に合わせた一人ひとりの援助が大事」という内容が多く見られる。中には「子どもは保育所で社会性を学ぶ」というスケールの大きい回答をしている学生もいる。

乳児院で働く保育士の最も大切な業務を「母親代わり」と答えた学生が35%、「愛着形成のためのスキンシップ」が21%、「家庭的な環境」が11%（図4）となっている。全体の人数（%）を見ると、家庭的な雰囲気大切にしていけばと感じた学生が多いことがわかる。「母親代わり」と答えた理由は、「子どもに他の家庭と違うことを感じさせないように、愛情を注いであげるべき」「大事な時期に母親と過ごすことができない子どもたちにとって、母親代わりになることが大切」など、乳児が施設でも健やかに育つことができるような内容になっていることがわかる。「愛着形成のためのスキンシップ」では、「子どもたちが他者とのコミュニケーションをとれるように、愛着形成のためのスキンシップが必要」「親がいない子どもたちにとって、愛着形成が一番大きな問題」など、乳児の成長後のことを視野に入れている学生が多く見られた。「家庭的な環境」では、「乳児院で育つ子どもは、普通の家庭とは生活環境が異なるので、より家庭的な環境で育てることが大切」「家庭的な環境を備えることで、子どもに家庭というものを感じさせ、将来親になったときにつなげられるようにする」など、施設と家庭の違い

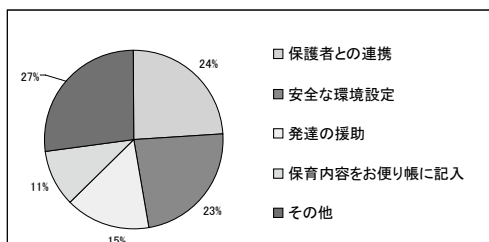


図3. 保育所保育士の最も大切な業務

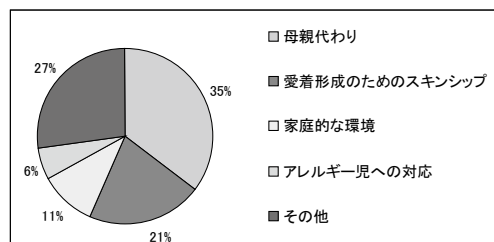


図4. 乳児院で働く保育士の最も大切な業務

いに注目している学生が多くいることがわかった。

(2) 保育所・乳児院に預けられている乳児のイメージ

① 保育所・乳児院に預けられている乳児のイメージを選択肢より3つずつ選ぶ。

保育所に預けている乳児のイメージの第1位は、「やんちゃ」が15%、第2位が「かわいい」14%、第3位が「生き生きとした」12% (図5) となっている。

乳児院に預けられている乳児のイメージの第1位は、「泣く」が14%、第2位が「かわいい」11%、第3位が「人見知り」9% (図6) となっている。

乳児にかかわったことがなく、一般的なイメージで答えている学生が多くみられる。そのため、保育所・乳児院関係なく「かわいい」というイメージが含まれていると考えられる。

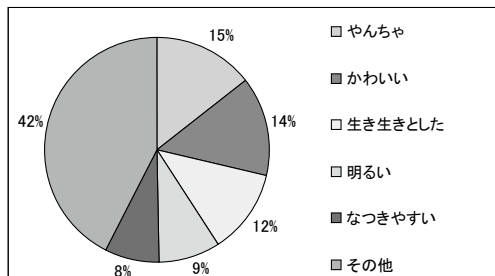


図5. 保育所に預けている乳児のイメージ

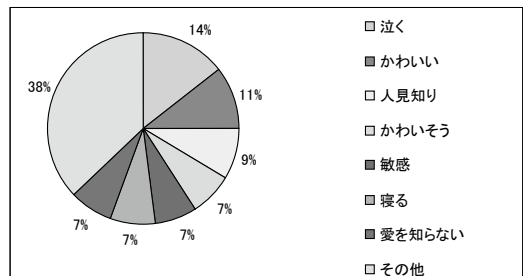


図6. 乳児院に預けられている乳児のイメージ

② 3つのうち一番に思いついたものをあげ、その理由を記入する。

保育所に預けられている乳児のイメージで一番に思いつくものは、「やんちゃ」「かわいい」が17%、「生き生きとした」が15% (図7) となっている。

保育所に預けられている乳児のイメージと一番に思いついたイメージにそこまでの変化は見られなかった。「やんちゃ」と答えた学生の理由には「いつも保育園の前を通ると、元気よく遊ぶ声が聞こえる」「保育所に通っているときにやんちゃな子が多かった」というような、自分の経験や保育所から聞こえてくる子どもたちの声からイメージしていることがわかる。「かわいい」では、「子どもはかわいい」という答えがほとんどであり、無条件に子どもはかわいいというイメージがついていることがわかる。中には、「子どもが生活をしている姿を見ているとイライラすることや、むかつくことがあっても最終的にかわいいになる」という、実際にかかわってきた学生からの言葉も聞かれた。「生き生きとした」では、「元気に遊んでいる」「天気の良い日は、外で楽しく遊んでいる」という回答が多く見られた。「保育所は自由なイメージ」という回答もあり、学生の中で幼稚園との違いがはっきりとしていることもわかる。

乳児院に預けられている乳児のイメージで一番に思いつくものは、「かわいい」18%、「かわいそう」「人見知り」「泣く」が12% (図8) となっている。「かわいい」では、保育所に預けられている乳児と同様に、「子どもはかわいい」という回答がほとんどであった。中には、「乳児院に入院していても乳児は乳児」という回答もあり、預けているのは親の問題であり、乳児には関係がないと学生が切り離して考えていることがわかる。「かわいそう」では、「保育者から愛情をもらってはいるものの、本当の保護者と暮らせないのはかわいそう」「親の勝手な理由で預けられているというイメージがぬぐえない」という回答が多く、学生が乳児のことを考え自然に出たものだと考える。「人見知り」では、「親の愛を生まれたときから知らないため、

いろいろな人に警戒をしている」「何らかの問題(家庭など)で他人とうまくかかわれない」など、乳児でも心に傷を負っていることを窺わせる理由が多く見られた。「泣く」では、「思いを伝えるために泣く」「自分の要求にすべて応えてもらえるわけではなく、たくさん泣いているイメージがある」「DVDの中で常に泣き声がしていた」というように、言葉ではなく泣いて伝えるという乳児のコミュニケーションが印象的であり、乳児のイメージとしてあがってきていることがわかる。

保育所・乳児院に預けられている子どものイメージを見てみると、保育所には肯定的な回答が多いが、乳児院には「かわいそう」を始め否定的な回答が多く見られることがわかる。

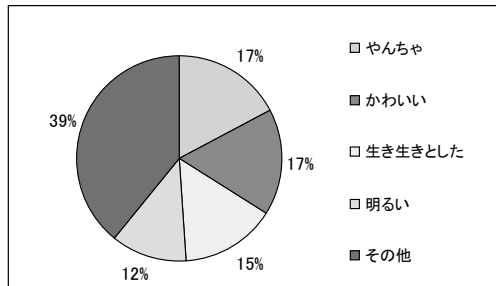


図7. 保育園に預けている子どものイメージで一番に思いつくもの

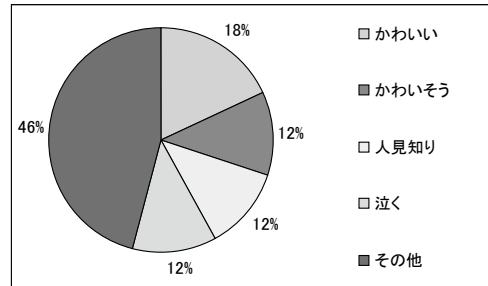


図8. 乳児院に預けている子どものイメージで一番に思いつくもの

(3) 保育所・乳児院の課題

① 保育所・乳児院の課題と思うものを選択肢より3つずつ選ぶ。

保育所の今後の課題としてあげているものは、「保育所の数が足りない」が42%、「保育士の数が足りない」が25%、「障がいなどの個別支援」が13%（図9）となっている。

乳児院の今後の課題としては、「他機関との連携」が16%、「保育士の人数が足りない」12%、「散歩の仕方」が11%（図10）となっている。

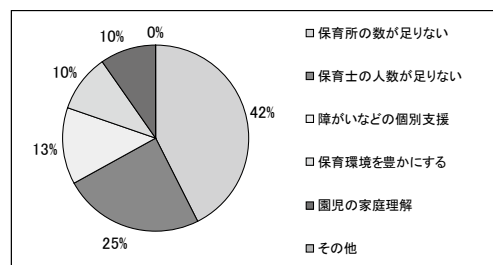


図9. 保育所における今後の課題

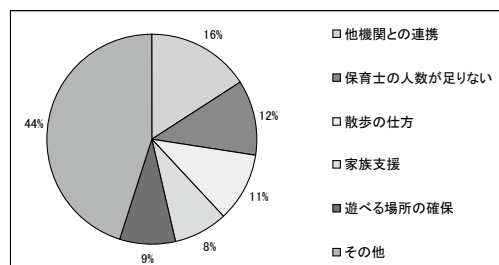


図10. 乳児院における今後の課題

② 3つの中で一番早期解決をしなければいけないものを上げ、その理由を記入する。

保育所で早期解決をしなければいけない課題は、「保育所の数が足りない」が52%、「保育士の人数が足りない」が15%、「障がいなどの個別支援」「家庭支援」が5%（図11）となっている。課題となるものにも変化は見られなかったが、学生の一番の関心が「保育所の数が足りない」というところに集まっていることがわかる。

「保育所の数が足りない」をあげた学生ほとんど全員が「待機児童解消」という理由をあげ

ていた。中には「保育所は社会に触れたりできるいいところだと思うため、みんなに入って欲しい」「働きたくても働けない」など、現代の生活を踏まえた意見が目立った。「保育士の人数が足りない」では、「1対1のかかわりが出来ない」「保育士一人ひとりに負担が多くのかかっている」という、保育士の業務の多さに注目している学生が多く見られた。「障がいなどの個別支援」も多くの関心を集めている。理由としては、「障がいかどうかの判断はとても難しいが、障がいを持っている子の個別支援で、その子どもの今後の成長が決まる」など、早期発見・早期介入の意識が高くなっていることがわかる。

乳児院で一番早期解決をしなければいけない課題は、「保育士の人数が足りない」「家庭と同じ環境」が20%、「心のケアの充実」が11%(図12)となっている。①乳児院の課題との違いははっきりと結果に出てきている。①乳児院の課題では、「保育士の人数が足りない」以外は、「他機関の連携」といった子どもの現在から将来を見据えた援助や、「散歩の仕方」など、現状で乳児院が行っている生活の一部の問題があがっていた。しかし、一番早期解決をしなければいけない課題では、「家庭と同じ環境」「心のケアの充実」など、現在の子どもの軸に考えたものになっている。「保育士の人数が足りない」と答えた学生の理由は、保育所の課題と同じように「保育士一人ひとりに負担が多くのかかっている」といった業務の多さのほかに、「子ども一人ひとりをしっかりと見られるようにするため」「愛着形成をしていくためにはなるべく、乳児と保育士が一对一の関係になることが望ましい」というような、乳児にとって必要なこととして保育士の役割を受け止めている学生がいることがわかった。「家庭と同じ雰囲気」では、「乳児院で育つ子は家庭の様子を知らないと思うし、家庭のような温かい環境で愛情を注いであげることがよいと思う」「子どもたちが将来家庭を持ったとき、家庭の雰囲気を知っておくのは大切だと思った」というように、乳児が成長したときのことも視野にいれ、考えていることがわかる。「一般の家庭の乳児と変わらない環境で育てることで、乳児も落ち着くことができる」といった理由もあがっていた。乳児院では、数十人の乳児と一緒に暮らし、保育士や看護師の人数が多いため、実際に落ち着かない雰囲気であることはDVDからでもイメージが出来る。「心のケアの充実」では、「虐待を受けてきた子どもも多く入所してくると思うので、心のケアが必要」といったように、親と離れて暮らすリスクを考えて心のケアを優先すべきと考えている学生が多く見られた。

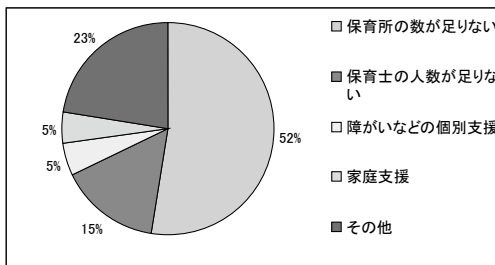


図11. 保育園の早期解決すべき課題

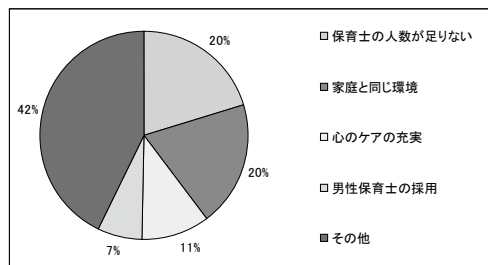


図12. 乳児院の早期解決

(4) 保育所で乳児保育を行う保育士の心構えでは、大きく分けて3タイプに分けられる。

まず1つ目は、「子ども一人ひとりに目をむけ、その子に合った保育を行う」という内容である。子どもを見ることは、保育士の基本であり成長を促していく者としては、当たり前のことになる。2つ目は、「安全確保・環境設定」である。乳児は自分で危険予測が出来ないため、

常に保育士が先回りし怪我や事故が無いように心がけていかなければいけない。その上で、子どもたちが快適に過ごせる環境を作ることで、子どもたちはのびのびと生活が出来る。3つめは、「乳児の発達段階と病気・怪我に対する知識」である。発達段階を把握することで、次に乳児に何をすればいいのか、どのような発達を促していけばいいのかの予測がつき、保育計画が立てやすくなる。病気・怪我に対する知識では、予期し得ない事故や怪我に対応し、状態を悪くしないために必要なものである。また、学生の中には、SIDSの予防にもつながると回答している学生もいる。

（5）保育所の乳児保育がより良いものになるような具体策では、さまざまな意見が出たが、そのほとんどが課題にあがっていたものの解決策と取れる。保育士の人数が足りない部分や、業務集中を改善するために「保育士の給料を上げ、残業手当をしっかりとつける」「一人ひとりの子と長時間かかわれ、一对一の時間がとれるようにする」という回答が多く上がっている。他にも、「保育所を増やすことで、働く人が増え社会情勢が変わる」「保護者や地域の人との交流を増やし、地域全体で子育てをしていく体制を作る」というような具体的なものが数多く出てきた。

6. 考察

今回の質問調査より保育所保育士や乳児院で働く保育士について、授業を受けた学生がどのように理解をし、問題や課題をどのように受け止めようとしているかが見えてきた。学生が保育士の大切な業務や課題等にあげた項目は、授業内にキーワードとして何度も繰り返し出てきたものや、授業毎の学びレポートとして学生に問題定義し、考えさせた項目に一致している。また、使用したDVDの中から読み取れるものも多く含まれていた。

学生は、漠然としたイメージの中で授業を受け、頭の中で想像し、時には、自分の過去とリンクさせながら、保育所・乳児院での「乳児保育」を組み立てていることがわかる。そのために、教員の言葉や視聴覚教材がそのままインプットされたと考えられる。保育所の課題では、現在騒がれている「待機児童」を取り上げた学生が多いのも、TVや新聞で頻繁に取り上げられているため、身近な問題としてインプットされていると考えられる。また、少数であったが最近TVでよく取り上げられている「病児・病後児保育」を、保育所がよりよくなるための具体策にあげている学生もいた。自然に耳に入ることで知らないうちに語句を覚え、どのような内容なのか無意識にも疑問に思い、授業で取り上げられることによって内容を理解し、いろいろな授業をうけることにより理解が深まっていると感じた。今後も、1つのことを多方面から見られるように、切り口を変えて学生に伝えていきたい。

保育所保育士と乳児院で働く保育士の業務については、児童福祉施設の特性をきちんと押さえ役割の違いを理解できているため、調査結果のように保育士の業務についても差が出てきたのだと考えられる。授業では、それぞれの一日の業務やそのポイントを重点に伝えられるようにしてきた。また、保育所と乳児院の授業が一通り終わったところで、「保育所と乳児院の業務・役割の比較（第10回）」で学生にグループワークを行い、「保育士の業務」をそれぞれ抜き出す作業を行った。そのために、業務の違いも理解できたのだと考えられる。第11回までに行えなかった記録や乳児の発達については今後行っていくが、保育所と乳児院の大元の違いである「保育」と「養育」がわかるように進めていくべきであると考え。一日の流れを追った業務は、ほんの一握りのものに過ぎないことも伝えていかなければいけない。

保育所に預けられている子どものイメージでは、学生自身が通っていたことや、地域にある保育所の側を通り戸外で走り回るなど子どもたちの元気な姿を見ていたり、すでに終えている幼稚園実習時の子どもに重ね合わせて考えていたりするため、肯定的なイメージが多くあげられたと考えられる。保育所でも、泣いている子どもはいるが、少数であり自分の意見や気持ちが伝わらないときなど、特定の理由であることは容易に想像が出来る。反対に、乳児院は数が少なく、かかわる機会もないため未知の世界であり、その中で暮らしている乳児の様子を想像することは難しい。そのため、使用した視聴覚教材の内容や乳児の姿が、すべての乳児院の乳児の姿となっていることが質問調査よりわかった。また、実の親と暮らせないという学生自身との違いや親から捨てられたという思い込みから、否定的なイメージがついてしまったと考えられる。DVDなど視聴覚教材は、実際に目で見るとイメージが掴みやすいため、知らないことをことばで伝えるよりも、スムーズに頭に入ってくるという利点がある。その反面、映像をそのままに受け止め間違った理解をしてしまう可能性があるといった欠点も多い。乳児院に預けられるのと、ネグレクトなどの虐待を行う両親の元に暮らすのとどちらが、乳児にとって最善の利益になるのかという部分まではDVDでは見えてこない。親と暮らせないイコールかわいそうというのは、現場で働く保育士にはない感情であることが多い。これは実際に働き、いろいろな家庭を知ることによってわかる部分でもある。それを伝えていくために、事例などを話しながら学生に考える時間を与えることが必要であり効果的だと考える。

乳児保育を行う上での心構えでは、学生が何を大切にしていきたいかという部分を読み取ることができた。学生の回答をカテゴリーごとに分類すると「一人ひとりを見ていく」「安全な環境設定」「発達や病気の知識」という3パターンに分けることができたが、「保育」という部分で見ればどれも大切であり、欠くことのできない項目である。授業では、心構えとして持つべきであるということは一切話しておらず、学生自身で考え導かれた答えである。授業だけではなく、実際に幼稚園実習を終えていることで、いろいろな授業の内容が一本につながり頭の中で整理ができたとも考えられる。今後は、もっと深い部分まで学生とともに追及しながら、心構えとして持つべき項目を探っていきたい。

解決すべき課題と保育所の乳児保育がよりよいものになる具体策では、共通する点が多く上がっていた。課題として上がっているものを改善していくことで、保育を受けている乳児や保護者だけでなく、入所を考えている乳児、その保護者までもが満足できることにつながっていく。しかし、保育のニーズは社会情勢や時代、親の世代によっても変化していく。そのために、現在を見るだけではなく、未来までも視野に入れ考えていく力を身につけていくべきだと考える。過去・現在の保育だけでなく、どんな可能性があるのかを考え、想像することも保育士として必要な能力だと考える。

7. まとめ

今回の質問調査は初めて行うものであり、133名という少ない人数の中での分析結果となった。そのため、授業の内容の良し悪しまでは見出すことができなかった。しかし、学生は授業内で筆者のキーワードを何度も聞くうちに漠然とした中にもインプットされ、他の科目や実習などを行い、子どもや保育の理解につなげていくことがわかった。偏った考え方や筆者の個人的感情は、学生が保育士として働くに当たりマイナスな要素にもなってしまう。また、DVDも未知の物をイメージしやすくするが、それ以上に強いインパクトを与え、そのもの以上には想像できないこともしっかりと理解をしていかなければいけない。あくまでも、「乳児保育」

の意義や役割を知り、学生が考え、理解していけるような切り口を伝えていくことを念頭に置き、授業構成を考えて指導を行っていききたい。

参考文献

- 1) 厚生労働省：保育所関連状況取りまとめ
〔表3〕年齢区分別の利用児童数・待機児童数
<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11907000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Hoikuka/0000022681.pdf>
平成25年4月1日
- 2) 厚生労働省：平成25年度の児童相談所での児童虐待相談対応件数等
1 平成25年度の児童相談所での児童虐待相談件数
<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-119010000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/0000053235.pdf>
平成26年8月4日
- 3) 厚生労働省：社会的養護の現状について（参考資料）
1. 社会的養護の現状（1）施設数、里親数、児童数等
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/syakaiteki_yougo/dl/yougo_genjyou_01.pdf
平成26年3月
- 4) 碓氷ゆかり・千葉武夫：保育者を目指す学生がもつ「赤ちゃんイメージ」に関する一考察：乳児に関わる前と関わった後の変化について，日本保育学会大会発表論文集（57），126-127，2004-04-10
- 5) 船越利代子：“乳児保育”授業における課題：保育所実習アンケート分析から，つくば国際短期大学紀要（38），1-15，2013
- 6) 本多潤子・小林育子・櫻井登代子・安村清美・鈴木 力・成田 真・高嶋景子・中原 篤：保育現場において認識されている男性保育者の特徴，田園調布学園大学紀要1，153-176，2007-3-17
- 7) 名倉一美・都築繁幸：障害児保育実践の現状と課題，教科開発学論集2，221-228，2014-03-31
- 8) 山城景子：就学前食物アレルギー疾患児の対応と支援：幼稚園・保育所における実態調査から，東洋英和大学院紀要8，39-70，2012-03-15
- 9) 柴田長生：対人援助職としての保育士の可能性2－乳児院・児童養護施設での保育士業務から見えるもの－，心理的社会的支援研究3，3-24，2013-03-31
- 10) 吉兼伸子・林 隆：特別支援教育時代における保育士の業務上の保育困難感について，山口県立大学学術情報3，81-87，2010-03-31
- 11) 齋藤政子：乳幼児期の生活主体形成と心理的拠点としての保育環境：乳児院における小規模グループケアの取り組みから，教育学部研究紀要（1），85-100，2011-03-15
- 12) 菊池篤子：「乳児保育」に対する学生の意識調査～魅力と困難さに関する一考察～，小田原女子短期大学研究紀要44，24-34，2014-03

